

あたたかなつながりを実感できる、みんなが主役のまちづくり

第4次住民福祉活動計画

(マキノ・今津・朽木・安曇川・高島・新旭)

第4次高島市地域福祉推進計画

2025-2029

2026-2030

4

さあ、みんなで参加しよう！



あたたかなつながりを実感できる、

みんなが主役のまちづくり



ごあいさつ



「ひとりひとりが主役。みんなで作る、あたたかなふくしのまちを目指して」

高島市の地域福祉は、第1次計画から一貫して「あたたかなつながりを実感できる、みんなが主役のまちづくり」を大切にしてきました。住民主体の活動を軸に、行政や関係団体と手を取り合いながら、一歩ずつ歩みを進めてまいりました。

この間、人口減少や少子高齢化、そしてコロナ禍による人付き合いの変化など、私たちは多くの困難に直面しました。しかし、そんな時こそ、地域のあちこちで互いを思いやり、さりげなく支え合う皆様の姿がありました。その姿は、「人と人とのつながり」こそが地域福祉の根っこであることを、私たちに改めて教えてくれました。今、国が進める「地域共生社会」という理念は、まさに高島市がこれまで育ててきた、誰もが役割を持ち、共に生きるという想いそのものです。

昨年4月から策定を進めてきた「第4次高島市地域福祉推進計画」では、これまでの歩みをしっかりと引き継ぎながら、さらに多様な方々が自分らしく参画できる環境づくりに力を入れてまいります。

生活に不安を抱える方、ヤングケアラー、孤立しがちな子育て家庭、そして障がいのある方の地域参加や災害時の備えまで、こうした多岐にわたる課題に対し、制度の壁を超えてお困りごとを『ひとつにつないで』支え合える仕組みを整えていきます。あわせて、誰もが気軽に立ち寄れる「つどいの場」を広げ、身近な相談場所を充実させるなど、皆様の活動を支える基盤もしっかりと固めてまいります。

この計画は、皆様お一人おひとりの「高島で暮らし続けたい」という願いを結集し、共に創り上げる未来の指針です。どうぞこれからも、変わらぬご理解とあたたかなご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、計画策定にあたり貴重なご意見をいただいた市民の皆様、関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。また、第1次計画から長きにわたり、本市の福祉に温かく寄り添い、丁寧にご指導をいただいております関西学院大学の藤井博志教授に、深く御礼申し上げます。

令和8年3月

社会福祉法人 高島市社会福祉協議会
会長 西村 陽子

計画の取りまとめにあたって

高島市福祉のまちづくり推進委員会 委員長

第4次高島市地域福祉推進計画策定委員会 委員長 海老澤 文代



この度、第4次高島市地域福祉推進計画が委員の皆さまの協力を得て策定されました。前年度に策定された住民福祉活動計画を受けた形で、また市の地域福祉計画と連動する、これからの5年間の計画です。

第1次地域福祉推進計画が策定されてから15年が経ち、高島市の情勢は大きく変化してきましたが、地域に暮らしている住民の「安心して、いつまでもこの地域に暮らしたい。」という願いは全く変わっていないと思います。その願いを叶えるためにどのように取り組んでいけば良いのかを真剣に考えていただいたと思います。

私は地域で活動をしている一住民として、委員長を担ってまいりました。専門家ではありませんので詳しいことは分かりませんが、計画策定を通じたグループ討議や共有の話し合いの中での委員の皆さまの様子を見させていただいていますと、出された意見があたたかく感じられ、話し合うことがとても大切な事なのだ気づかされます。

地域のなかでも話し合い、知り合うことが福祉のまちづくりの第一歩と考え、みんなで力を出し合うまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

高島市福祉のまちづくり推進委員会 副委員長

第4次高島市地域福祉推進計画策定委員会 副委員長

関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科 教授 藤井 博志



「高島市社協第4次計画の推進に向けて」

本計画の第1期策定時に、3期15年間は計画の継続を高島市社協にお願いしました。

当初の構想を具体化するためには持続的な長期の取り組みが必要だったからです。

この間、住民福祉協議会をはじめとした多様な団体、機関との協働を行政とともに広げてきました。それは、高島市における地域福祉からの自治の形成といえるものでした。

制度福祉ではない地域福祉は時間がかかります。15年の節目を経て、第4期計画は第2章としての新たな出発の計画といえます。本計画では、これまでの協働の取り組みを高島市社協の機能として明確にするために、やや難しい表現ですが「地域福祉の基盤型中間支援機能」と名付けました。関係者と力を合わせて地域福祉の協働領域を拡大しながら、生活に必要な取り組みを開発していくという働きです。

今後の地域社会構造の急激な変化のなかで、課題は山積しその解決方法は未知数です。しかし、地域とその暮らしに目を向ければ、これまでの地域の資産が多く蓄積されています。その蓄積をもとに、市民誰もが自らの幸福追求と希望実現をめざすことができ（憲法第13条）、その中で安心のセーフティネットをつくる（憲法第25条）取り組みを本計画で進めていきましょう。

もくじ

ごあいさつ 高島市社会福祉協議会 会長 西村 陽子

計画のとりまとめにあたって

高島市福祉のまちづくり推進委員会 委員長 海老澤 文代

副委員長 藤井 博志 (関西学院大学教授)

contents			
第 1 章	計画の策定にあたって	1 計画策定の背景	2P
		2 計画の目的	6P
		3 計画の位置づけ・期間	8P
		4 計画の進行管理	10P
		5 計画策定の体制	11P
第 2 章	第 4 次住民福祉活動計画	1 住民福祉活動計画の策定について	14P
		2 マキノ住民福祉活動計画	16P
		3 今津住民福祉活動計画	18P
		4 朽木住民福祉活動計画	20P
		5 安曇川住民福祉活動計画	22P
		6 高島住民福祉活動計画	24P
		7 新旭住民福祉活動計画	26P
第 3 章	第 4 次地域福祉推進計画	1 地域福祉目標 (地域福祉のビジョン)	30P
		2 地域福祉を推進する 4 つの視点	31P
		3 計画の全体像	32P
		・圏域ごとのネットワーク関係図 ・推進目標と計画の全体イメージ図	33P 35P
	4 地域福祉推進計画総合体系図	36P	
	推進目標 1	小地域 (区自治会) における あたたかなつながりのある地域づくり	38P
	推進目標 2	中学校圏域 (6 地域) における 住民主体の多様なつながりづくり	45P
	推進目標 3	市域における住民主体の多様な活動づくりと多様な主体の地域福祉への参加の促進	50P
	推進目標 4	誰もが安心して暮らしていくことができる 総合相談支援体制と専門職連携の強化	59P
	推進目標 5	住民ニーズに寄り添ったケアの充実	65P
	資料	第 4 次高島市地域福祉推進計画策定の経過	70P
地域福祉推進計画策定委員会設置要綱		71P	
第 4 次高島市地域福祉推進計画策定委員会委員名簿		72P	
第 4 次住民福祉活動計画参画者名簿		73P	